

めざす姿、今後の取組の方向性など（意見照会の結果）

1 めざす姿

(1) 地域を活性化していく

- このまま推移すると、10年後には、自治区の維持が困難となることから、地域を活性化していくべき。

(2) 現状を維持していく

- この地で暮らす人たちが「衣食住」で互いに助け合い、自立して生活できると良い。10年後や20年後を見据え、集落機能を維持していくため、若い世代に定住してもらうことが大切である。
- 動ける人が20人以上で、全30戸程度の規模を維持する。
- 活性化するには人が少なすぎることから、定年退職した人にも目を向け、老後の居住地として進める。
- コミュニティとしてある程度の規模で、維持されていくことが望ましい。

(3) 現実をありのまま受けとめる

- 地域の活性化でもなく、現状維持でもない、ただ訪れる現実を粛々と受け入れていく。

2 今後の取組

(1) 現在抱えている課題の解決

<買い物>

- 宅配サービスや移動販売車の巡回などにより、買い物にあまり不便を感じていない人が多いのではないか。
- 買い物の希望日時や行きたい店などを自治会で取りまとめ、年4回、春夏秋冬に「買い物相乗り週間」を設けてはどうか。
月1回程度の自治区としての「買い物ツアー」のような取組はストレス解消になるのではないか。
- 移動販売車の巡回を個人宅まで来てもらえるようになると良い。

<除雪>

- 除雪や水道などの集落機能の維持が必要である。
- 屋根からの落雪などは地域内での支援が難しいため、どのような支援が適切なのか、行政を交えての話し合いが必要である。
- 北海道開発技術センターが運営する雪はねツアーなどを活用してはどうか。
- 除雪を軽減するための多目的集合住宅のようなものを整備し、安心なコミュニティを形成していく。

<担い手>

- 地域を維持していくためには、人材の育成や新しい母子里居住者を増やしていく必要がある。
地域の若い担い手を育成するとともに、シニア世代や団塊の世代を積極的に受け入れていく必要である。
- ↔ 自治区の役員選考などは、従来の考え方を改め、地域の実情を勘案するところから始めるべきではないか。

(2) 地域コミュニティの維持・活性化

- お年寄りの生活の援助などは、移住希望者や地域おこし協力隊に頼らず、地域のみんなで支え合うべきである。
物々交換（例えば除雪と毛糸の靴下など）等のお金のやりとりを必要としない仕組みづくりについて検討してみてはどうか。
- 近所づきあいも盛んであり、地域の中で孤立している高齢者の方などは存在していないと思われ、好ましい状況である。
助け合いや支え合いといったことは、現状でも十分になされているのではないか。
- 行事の準備などは大変な労力であり、一定の人たちだけに負担がかかってしまうため、「やりたいこと」と「できること」を見極めるべき。
- 多目的集合コミュニティ公営住宅と老人介護施設を整備するとともに、これらの施設で働く人の住宅も整備してはどうか。
- 高齢者の野菜づくりを応援するシステムを考えてみてはどうか。

(3) 外部の力の活用

<移住者、地域おこし協力隊など>

- 地域おこし協力隊員を複数人配置するなど、新しい地域住民に移住定住してもらうことが必要である。
地域おこし協力隊には、地域にある問題や課題に挑戦してもらい、住民との連携により地域の活性化に関する仕掛けを構築してもらう。
新たな移住者には、母子里の魅力を発信してもらい、スローライフの先駆者として良い手本になってもらう。
- ↔ 外部の人に何に取り組んでもらうかは、住民がこの地域をどのようにしたいかが前提であり、「とりあえず人が来てくれれば」ではダメだと思う。
- 農業に従事しながら、農家としての自立をめざす地域おこし協力隊などであれば、活用価値はあるかもしれない。

<大学やNPOとの連携>

- 北大雨龍研究林関連施設などの母子里地区への移設や北大低温科学研究所や名大太陽地球環境研究所との連携強化が必要である。
 - ↔ 企業誘致や北大の機能移転などは、町や大学に対する要望に留めたほうが良いのではないか。
- 旭川大学との連携により、地域おこし協力隊の自治体活動や地元資源を活かした商品化を支援していくとともに、地域おこしの人材を育成していく。
- NPO法人「よるべさ」との連携により、高齢者支援やコミュニティ活動（買い物、そば祭り、花火大会等）の活性化などを図っていく。
- NPO（ボランティア組織）による自治体全員対象の軽作業の継続（花壇づくり、学校グラウンド・墓地の草刈、お祭り）

(4) 母子里地区での定住

- 「移住者を増やす」といった発想ではなく、「ここに住みたい」と思ってもらうことが必要ではないか。
- ホームページなどで母子里の四季の素晴らしさや夏の過ごしやすさなどをアピールし、老後の住む場所として勧めてみてはどうか。
- お試しで中長期間滞在できるコテージ的な住宅物件の整備が必要ではないか。
- 新たな事業者（パン屋さんなど）を誘致してはどうか。
- 教育環境や救急医療体制のあり方の検討が必要ではないか。

<働く場の確保>

- 母子里地区で人手が無くて困っている水源地の管理や冬期間の除雪
- 山菜の採取、販売（可能であれば加工も）
- 漁業（漁と加工）とフィッシングガイド、釣り場までの船渡し
- 粉雪を楽しむ山のガイド、アウトドアインストラクター
- 他市町村の営農者が経営する農場への支援（そば仮乾燥施設、住環境等の整備）
- 「天使の囁き」や「犬そり大会」など、既存のイベントを活用した産業おこし
- 上川振興局管内の観光と連携した朱鞠内湖観光産業の振興
- 北大や町には、働く場の確保に向けたサポート（山菜の採取の承認、資金面の援助など）をお願いしたい。